

元気で暮らそう 家族の健康

インフルエンザについて



ひるま小児科クリニック
比留間 藤昭先生



インフルエンザについてお話しをします。インフルエンザは、大きく分けてA、B、C型があります。流行し問題を起こすのは、A型（主に気管支炎症状）、B型（主に消化器症状）で、C型は大きな流行は起こさないとされています。

普通のカゼの症状は、発熱、セキ、鼻水などで全身の症状（筋肉痛、だるい）は、あまり見られず重症化することは少ないです。インフルエンザは、①急な発熱、②頭痛、関節痛、筋肉痛、だるいなど全身の症状が強い、③周囲（学校内、地域内、家族

の症状の人が居るなどの、情報により診断を考えます。

診断において、必要ならば迅速診断キット（綿棒で鼻粘膜をこすり、十五分ぐらいでウイルスの反応をみる検査）を行います。しかし、この検査も一定のウイルス量があつて陽性を示す検査なので、発熱後数時間（ウイルス量が増えていない）とか、発熱4日後（ウイルス量が減少している）などでは、陽性にでないことがあります。症状、情報など総合して、判断診断を行います。

かかってしまった場合は、48時間以内ならば抗ウイルス剤（ウイルスの増加を抑制）を用いることで、症状の短縮をすることが考えられます。しかし、発病後時間が過ぎると、ウイルスが増加し効果は見られません。

かからないためには、基本は流行前にワクチン接種（重症化の防止に有効）を受けることです。流行してきたら、かかった人のセキ、つばなどで放出されたウイルスを吸入して感染しますので（飛まつ感染）、人ごみは避け、外出時はマスク、帰宅時はうがい、手洗いは予防になります。

かかったかなと思ったら、単なるカゼだと思わず、早めに医療機関を受診して判断治療を受けましょう。